

おわりに

このテキストを通して、思春期の子どもとの接し方を学んできましたが、いかがでしたか。理解していただけましたか。

しばしば耳にするのは、「考え方は分かったが、実行するのが難しい」という感想です。

今まで慣れ親しんだやり方を変えていくのはなかなか大変です。親は簡単に、子どもに変わるように要求します。「もっときちんと」「もっと勉強を」「もっと上手に」「もっと早く」と。しかし、自分を変えていくのは大変だということを理解していただけましたか。子どもも同じことです。

とはいえ、親がまず変化すると、子どもも自然に変化していくというのは、しばしば見られます。もちろん、子どもが成長して親も変化していくということもあります。人間関係は相互作用ですから、どちらが先ということはありません。ただ、子どもによっては自分で変化する力が弱い場合、親のほうが変化すると、もっと大きな変化が生まれるというのがあります。

しかし、最初から子どもの変化を期待しては、「自分はこんなに努力しているのに、なぜ子どもは変わらないのだ！」などと傲慢な考え方に陥ってしまいます。

幼児なら変化は早いですが、思春期ですから、そんなに短期間のうちに極端な変化が起こるわけではありません。親としての徳を積もうというぐらいの心づもりで、ひたすら練習しましょう。野球でもゴルフでもフォームを修正するのは大変です。50歳半ばにして箸の持ち方を変える練習をして成功した人もいます。練習が必要なのです。練習すれば変化が起こります。

練習する意欲を保つためには、子どもとのコミュニケーションを見直すという高い意識を保持することが何としても重要です。誰かに指摘される経験もいいでしょう。日々の生活に追われ、ゆとりをなくしているのな

ら、いったい幸せとはなんだろうかと少し哲学的なことも考えてみることも重要でしょう。幸せの定義は様々あると思いますが、身近な人との良好なコミュニケーションはその一つと言えるでしょう。子育ては自分の生き方を振り返ることでもあると思います。

人生は学びの連続です。子どもたちには、身近な人との良好なコミュニケーションを通じて、自尊感情を高め、信頼や希望などの肯定的な価値観を学び、育ててほしいと思います。そのことが自律と自立につながるでしょう。

ひょうごユースケアネット推進会議

兵庫県立神出学園 相談指導課

相談指導課長 稲垣元文

保健師 西邑雅代

心理判定員 持田美紀

心理カウンセラー 河崎十星子



輝く未来のために
～思春期・青年期の子どもとのつきあい方～

平成 23 年 3 月

編集・発行：兵庫県立神出学園 [(公財)兵庫県青少年本部管理運営施設]

〒651-2304 神戸市西区神出町小束野 30

T E L : 078-965-1122 F A X : 078-965-1123

協力：ひょうごユースケアネット推進会議